

排出削減実績報告書

排出削減事業の名称：

A 重油ボイラから都市ガスボイラへの更新プロジェクト

排出削減事業者名：松菱金属工業株式会社
(本社第二工場)

排出削減事業共同実施者名：丸紅株式会社

その他関連事業者名：

1 排出削減事業者の情報

排出削減事業者	
会社名	松菱金属工業株式会社
排出削減事業を実施する事業所 (複数の事業所で実施する場合、行を挿入し全事業所を記載すること)	
事業所名	第二工場
住所	東京都羽村市明神台四丁目 6 番 2 号
排出削減事業共同実施者 (国内クレジット保有予定者)	
排出削減事業共同実施者名	丸紅株式会社
その他関連事業者	
関連事業者名	

2 排出削減活動の概要

2.1 排出削減事業の名称

A 重油ボイラから都市ガスボイラへの更新プロジェクト

2.2 排出削減事業の目的

A 重油ボイラ 2 基を都市ガスボイラ 2 基へ更新する。高効率の都市ガスボイラへ更新し、単位発熱量あたりの CO2 排出量が少ない都市ガスへ燃料転換することで、CO2 排出量を削減する。

2.3 温室効果ガス排出量の削減方法

A 重油ボイラ 2 基を都市ガスボイラ 2 基へ更新する。高効率の都市ガスボイラへ更新することで、省エネルギーを図り、CO2 排出量を削減するとともに、単位発熱量あたりの CO2 排出量が少ない都市ガスへ燃料転換することによって、CO2 排出量を削減する。

2.4 国内クレジット認証要件の確認

排出削減量は承認排出削減計画に従って当該計画を実施した結果生じたものか	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
排出削減量は承認排出削減方法論及び承認排出削減事業計画に従って算定されているか	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ

2.5 承認排出削減事業計画からの変更項目

変更なし。

3 排出削減活動期間

3.1 プロジェクト開始日

排出削減事業計画 4 項に沿って記載（計画から変更あった場合は、実際の開始日に変更して記載）。

2011 年 8 月 17 日

3.2 モニタリング対象期間

（本報告における実績報告期間）

2013 年 4 月 1 日 ～ 2019 年 7 月 31 日

4 温室効果ガス排出削減量

4.1 採用した排出削減方法論の情報

方法論番号	方法論名称
001	ボイラーの更新

4.2 活動量

排出削減事業が活動量指標を採用している場合、排出削減事業計画 5 項に沿って記載。

4.2.1 活動量・原単位

活動量・原単位は採用しない。

4.2.2 活動量の採用根拠

活動量は採用しない

4.3 事業の範囲（バウンダリー）

都市ガスボイラ及びボイラから蒸気の供給を受ける設備

5 モニタリング対象指標

排出削減事業計画 7.1 項を参照して記載。記載内容に変更のある場合、変更理由を項目ごとに記載すること。

項目	定義	単位	実績値	モニタリング方 法・ 根拠資料	(モニタリング方法に変更 ある場合、) 変更理由
$F_{\text{fuel,PJ}}$	都市ガス使用量	Nm ³	2013 年度: 246,824.7 2014 年度: 221,791.5 2015 年度: 210,697.9 2016 年度: 218,767.3 2017 年度: 233,256.3 2018 年度: 216,773.9 2019 年度: 64,245.3	ガス請求書 (m ³ から Nm ³ への換 算係数 0.957、武陽 ガス)	変更なし
ε_{PJ}	事業実施後都市ガス ボイラ効率	%	87.30 (高位発熱量基準)	カタログ値	変更なし
ε_{BL}	事業実施前A重油ボイ ラ効率	%	90.25 (高位発熱量基準)	カタログ値	変更なし
$HV_{\text{fuel,PJ}}$	都市ガスの単位発熱	GJ/Nm ³	2013 年度～2014 年度: 0.0451 2015 年度～2016 年度: 0.0450 2017 年度～2019 年度: 0.0451	J-クレジット制度 デフォルト値	変更なし
$CF_{\text{fuel,BL}}$	A重油の単位発熱量あ たりの排出係数	tCO ₂ /GJ	2013 年度 ～2019 年度: 0.0708	J-クレジット制度 デフォルト値	変更なし
$CF_{\text{fuel,PJ}}$	都市ガスの単位発熱 量あたりの排出係数	tCO ₂ /GJ	2013 年度 ～2019 年度: 0.0513	J-クレジット制度 デフォルト値	変更なし

6 排出削減量の計算

承認排出削減事業計画において採用した算定式に基づき、モニタリング対象項目実測値等を反映した計算結果を記入すること。

注) 複数の方法論を採用している場合は、方法論ごとに排出削減量の計算結果を記入すること。

6.1 事業実施後排出量

	活動量	単位発熱量	排出係数	CO2 排出量
2013 年度	246,824.7	0.0451	0.0513	571.1
2014 年度	221,791.5	0.0451	0.0513	513.1
2015 年度	210,697.9	0.0450	0.0513	486.4
2016 年度	218,767.3	0.0450	0.0513	505.0
2017 年度	233,256.3	0.0451	0.0513	539.7
2018 年度	216,773.9	0.0451	0.0513	501.5
2019 年度	64,245.3	0.0451	0.0513	148.6
単位	Nm3	GJ/Nm3	tCO2/GJ	tCO2
	EM _{PJ}			3,265.4

6.2 ベースライン排出量

	活動量	単位発熱量	排出係数	CO2 排出量
2013 年度	10,767.9		0.0708	762.4
2014 年度	9,675.8		0.0708	685.0
2015 年度	9,171.5		0.0708	649.3
2016 年度	9,522.7		0.0708	674.2
2017 年度	10,176.0		0.0708	720.5
2018 年度	9,456.9		0.0708	669.6
2019 年度	2,802.8		0.0708	198.4
単位	GJ	—	tCO2/GJ	tCO2
	EM _{BL}			4,359.4

6.3 リークージ排出量

	活動量	単位発熱量	排出係数	CO2 排出量
2013 年度	0			0
2014 年度	0			0

2015年度	0			0
2016年度	0			0
2017年度	0			0
2018年度	0			0
2019年度	0			0
LE				0

6.4 温室効果ガス排出削減量

項目		記号	
ベースライン排出量	(7.2)	<i>EM_{BL}</i>	4,359.4
事業実施後排出量	(7.1)	<i>EM_{PJ}</i>	3,265.4
リーケージ排出量	(7.3)	<i>LE</i>	0
温室効果ガス排出削減量		<i>ER</i>	1,094

7 省エネルギー量

	原油換算 (kl)		
	ベースライン (①)	実績 (②)	ベースライン-実績 (①-②)

9 再生可能エネルギー利用量

	モニタリング期間 (年 月 日 ~ 年 月 日)			
	単位	エネルギー使用量	熱量換算 (GJ)	原油換算(kl)
		(実績)	(実績)	(実績)
バイオマス利用量				